

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成19年8月1日

【評価実施概要】

事業所番号	2291400014		
法人名	矢崎総業株式会社		
事業所名	ヤザキケアセンター 紙ふうせん		
所在地 (電話番号)	裾野市御宿1500 (電話) 055-965-0633		
評価機関名	静岡県社会福祉協議会		
所在地	静岡市葵区駿府町1-70		
訪問調査日	平成19年5月15日		

【情報提供票より】(19年5月2日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年7月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤	11人, 非常勤 1人, 常勤換算 11.3人

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建て	2 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円他
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(50,000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	300 円	昼食 500 円
	夕食	500 円	おやつ 200 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(5月2日現在)

利用者人数	8 名	男性	5 名	女性	3 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80 歳	最低 71 歳	最高 90 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	高桑医院、おぐち医院、フジ虎ノ門病院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営母体である法人理念を「地域の人から必要とされるもの」として、企業の持つ力やノウハウを福祉の場に提供している。利益追求のための取り組みではなく、利用者本位の満足される支援を提供するために、利用者一人ひとりの充実した生活が継続されるよう取り組んでいる。ホームのハード整備も広さにゆとりをもったり、夜勤者を2名にする等、利用者に対する温かな支援を実践している。開設1年のホームであり、これまで職員が一丸となって取り組み、利用者及び家族との良き信頼関係を築きあげてきたことは、家族アンケート結果からも推測できる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	開設1年であり、今回がはじめての取り組みである。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価及び自己評価についての意義を理解して取り組んでいる。自己評価も職員全員で取り組み、今後の取り組み活かしていくこととしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	開設1年を経過し、運営推進会議を定期的開催するなかでその役割と意義についての理解を深める場もなっている。地域住民等の参画も得て開催するなかで、ホーム運営に関する質問も多く、活発な意見交換が行われている。また、その内容については全ての職員に周知されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	これまで大きな苦情は出されていない。利用者本位のサービス提供と家族との信頼関係の構築を行うことを大切に組みこんでいるなかで、家族からの相談にも親身になって対応している。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣に企業の社宅などがあり、自治会との関係も良好である。開設して間もないこともあり、地域との連携を構築するまでには至っていないが、関係構築が困難な様子ではない。市との関係もよく地域の中での役割が期待できる。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者及び地域の人から必要とされるものとして、最高の介護支援を提供することをホームの理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者及び職員は常にホーム理念を確認し、その実現に向けて一丸となって取り組んでいる。その内容の確認を常に行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の自治会活動や市内の祭りに参加している。また、運営法人の企業内陶芸教室等に参加する等、地域との関わりを大切に考えている	○	開設1年を迎え、利用者の状況と意向を踏まえて、今後も地域と交流を深めるように期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	開設1年を迎えるホームであり、自己評価、外部評価の取り組みも初めての試みであるが、その意義を十分理解して取り組んだ。これらの取り組みを踏まえ、現在の問題と課題を共有することに期待したい。	○	自己評価結果、外部評価結果が全てではないが、より利用者本位のサービス提供に向けた取り組みを検討する際に参考にして欲しい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は地域住民等も含めて定期的に行われ、ホームの役割等についての意見も多く出されている。取り組んでいる現状を報告し、意見を何う場として重要な位置付けにしている。また、出された意見は尊重して、職員間で共有している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に数回は市役所担当課に赴き、現状報告、サービスについての意見交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者一人ひとりの状況について、かかりつけ医への定期受診や訪問の際に、日ごろの生活の様子等を伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者家族が気軽に意見を言えるような関わりを家族ともち、できる限り意向や意見を把握するように取り組んでいる。それらを運営にも反映させるような仕組みも講じている。	○	重要事項説明書には、ホーム窓口だけでなく、市町村、国保連の連絡先を明記して欲しい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来職員配置の移動は行っていない。馴染みの信頼される関係づくりを大切に考えてこれまで取り組んできている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の場合には積極的に受講できるように取り組み、必要に応じた内部研修機会を設けるようにしている。	○	職員の経験と職務に応じて、体系的な研修計画を作り、それによる質の向上を図る取り組みに期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所での研修や、意見交換等を行い、相互により良い方法を検討し、取り入れるようにしている。	○	他事業所との交流や相互研修を行う中で、定期的な連絡連携とともに、継続した相互研修が行えるような取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望相談からすぐにホーム利用に繋げるのではなく、利用希望者及び家族との相談等を重ねながらどのようなサービスが必要なのかを十分に検討している。併設のデイサービスや小規模多機能事業所等の利用も重ねて検討している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者との目線の高さを同じにして、信頼される関係づくりの構築に努めている。職員は、利用者へ寄り添いさりげない支援を行うように心掛け、同じ時間をともに過ごす姿勢で関わっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	初回アセスメント時に、利用者及び家族から生活歴や過去の経験を聞き取り、日常生活の中での会話等から利用者の希望や意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメント、計画作成、モニタリング等の仕組みが確立しており、利用者及び家族に対する説明も適切に行われている。また、職員も含めたそれぞれの意見を反映させる計画策定が行われている。	○	サービス提供の根本となる計画の見直しは、職員の意見を踏まえているが、見直し方法については定めて欲しい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画中の目標期間や見直し期間の記載も適切にされている。また、そのとおりの見直しが行われ、必要に応じて随時見直しも行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の体調不良時や時々々の要望に応じてかかりつけ医や家族、関係機関と連携を図った専門的な対応を行うようにしている。また、ホーム機能を活かして他サービスとの連携等を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回はかかりつけ医への受診を行い、日常生活の状況をかかりつけ医に伝えたり、留意事項を確認する等、その情報を家族に伝える等に取り組んでいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在の入居者の状況(身体機能等)を維持することを目標に支援が行なわれている。現時点では、利用者の重度化や終末期に向けた検討は行われていない。	○	ホームの求められる現状を把握し、今後の方針について利用者や家族からの意向を踏まえて計画的に検討していくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の意思を尊重し、また人生の先輩として敬意をもって支援が行われている。プライバシーへの配慮と個人情報の保護には十分に留意するようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の概ねのスケジュールは定められているが、利用者一人ひとりのペースと意向を大切に希望に添った支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節ごとの特別食(桜餅など)を作ったりする食事レクを行ったり、準備や片付け等を楽しく一緒に行うように心掛けている。食事は、入居者のペースに合わせ、職員も一緒に座って、ゆっくり過ごしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3回以上の入浴を提供している。入浴できない場合には清拭や足浴等に対応している。時間帯も利用者の希望に添えるように取り組んでいる。	○	できる限り毎日入浴できるような意向の把握やその取り組みに向けて検討を期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの得意な事柄や楽しみごとを把握し、無理にならないように楽しく役割と活動が行えるように支援している。また、その活動のための物品類も準備している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望を踏まえながら、できる限り外出する機会を提供している。日常での散歩や買い物等積極的に外出している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないことで想定される事故を防ぐために、玄関には常時施錠している	○	扉が開かないことによる利用者の不安や精神的な動揺について考え、利用者を見守ることで事故を防ぐようにする等、必要時以外施錠しない検討を期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を年に一度以上行っている。今後は、地域防災訓練等にも参加するとともに協力も仰ぐことができるような取り組みを計画している。	○	様々な場面を想定し、利用者が安全に避難できる方法や、地域住民等に協力を得るような体制づくりを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の把握は毎食後行っている。また水分摂取量にも留意し、一人ひとりの摂取量をチェックしている。状況を十分に把握した支援が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に明るく、清潔で、適当な場所にベンチやソファなどが置かれ、居心地の良い空間となっている。全館床暖房であり、椅子は3段階に高さを違って一人ひとりに合わせた高さとなっている。またトイレ便座の高さにも配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、利用者の個人的スペースとして、利用前に自宅で使っていた家具や使い慣れた物品が持ち込まれ、個性ある居室となっている。		